


司法権を担う
唯一の組織の
一員であること

Team
PRIDE


誇れる自分を、誇れる未来を、創るのはこのチームだ。

裁判所職員採用案内


●裁判所事務官 ●裁判所書記官 ●家庭裁判所調査官



裁判手続の
スペシャリストで
あること



この国の司法の
信頼を支える
存在であること



問題を抱える
家庭の力に
なれること

Team PRIDE

誇れる自分を、誇れる未来を、
創るのはこのチームだ。

01 インフォメーション

裁判所の組織	3
採用試験	4

02 裁判所で活躍する Professional

職種紹介	5
キャリアパス・待遇	6
裁判所事務官	7
裁判所書記官	9
家庭裁判所調査官	11

03 職員からの Message

若手職員の声	13
裁判所の総合職	17

04 研修制度

仲間とともに学び、成長する	19
家庭裁判所調査官養成課程	20
裁判所書記官養成課程 第一部研修生	21
裁判所書記官養成課程 第二部研修生	22



My Pride

司法の一翼を担い 裁判を支える存在であること

裁判は国民の信頼の上に成り立っています。私たちには、一つ一つの案件に真摯に向き合い誠実に対応することによって国民の信頼を得るとともに、裁判官、書記官、事務官、家裁調査官等の多様な職種がそれぞれの役割を果たしながら率直に意見交換し連携・協働することによって国民に利用しやすく分かりやすい裁判、適正迅速な裁判の実現を図ってきたという自負があります。

現在裁判所ではデジタル化の検討が進んでおり、裁判手続の進め方やそれを支える事務の在り方は大きく変容することが見込まれますが、裁判に向き合う姿勢や各職種の連携・協働の大切さは変わりません。

私たちは、司法の一翼を担い裁判を支えているという矜持を持ち、それを背景に、周囲と協調しながら主体的・自律的に意見を表明し、より質の高い裁判の実現に寄与することが求められています。皆さんが新しい仲間として加わり、未来の裁判所を共に創造していくことを心からお待ちしております。

最高裁判所
大法廷首席書記官

定久 朋宏

裁判所の組織

我が国は、公平公正な裁判を実現するために三審制度を採用しており、全国に裁判所が設置されています。



任地について

総合職試験(裁判所事務官)及び一般職試験の合格者は、いずれも希望する勤務地を管轄する高等裁判所の管轄区域内の裁判所の中から採用庁が決定されます。

総合職試験(家庭裁判所調査官補)の合格者は、全国の家裁判所のうち、大規模庁の中から採用庁が決定されます。採用庁については、本人の希望のほか、各裁判所の欠員状況なども考慮して決定されます。

裁判所の種類

最高裁判所

高等裁判所の裁判に対してされた不服申立て(上告等)を取り扱う最上級、最終の裁判所です。

上告

上告

特別抗告・再抗告

上告

高等裁判所

地方裁判所、家庭裁判所、簡易裁判所の裁判に対してされた不服申立て(控訴等)を取り扱います。

本庁8庁(支部6庁)

東京(知的財産)、大阪、名古屋(金沢)、広島(岡山・松江)、福岡(宮崎・那覇)、仙台(秋田)、札幌、高松

控訴

上告

控訴

刑事

抗告

家事・少年

控訴

人事訴訟

地方裁判所

民事事件、刑事事件の第一審を簡易裁判所と分担して取り扱います。

本庁50庁

都道府県庁のある47か所のほか
函館、旭川、釧路の3か所

支部203庁

家庭裁判所

家事事件、少年事件、人事訴訟事件などを取り扱います。

本庁50庁

都道府県庁のある47か所のほか
函館、旭川、釧路の3か所

支部203庁

出張所77か所

控訴 民事

簡易裁判所

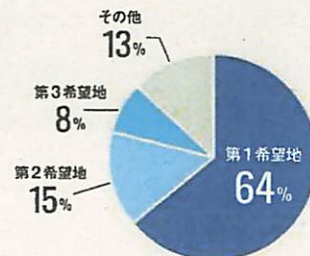
438庁

争いとなっている金額が比較的少額の民事事件と比較的軽い罪の刑事事件のほか、民事調停も取り扱います。

Point

採用者の87%が
第3希望以上で採用されています！

右のグラフは令和5年度一般職試験に合格し、令和6年4月1日までに採用された者について、希望地別の採用割合を示したものです。



採用試験

裁判所では、法学部のほか、経済学部、文学部、教育学部、理学部など、様々な学部出身者が活躍しています。また、事務官法律研修や裁判所職員総合研修所の養成課程など、採用後に法律知識を習得する機会もあります。

裁判所事務官

総合職試験（裁判所事務官）、一般職試験（大卒程度区分）は、試験科目に法律科目が含まれていますが、いずれも細かな専門知識を問うものではありませんので、法学を専攻していない方も多く合格しています。なお、第1次試験専門試験（多肢選択式）では、行政法、刑法、経済理論の中から1科目を選択することができます。

Point 大学で法学を専攻していない方も多く合格しています！

総合職試験（裁判所事務官）の特例制度について

総合職試験（裁判所事務官）の受験者が、申込みの際に特例を希望して各試験科目を有効に受験すると、同試験に加え、一般職試験（大卒程度区分）受験者としての合否判定も受けることができる制度です。特例の希望の有無が合否に影響することはありません。

受験資格	総合職試験（裁判所事務官）		一般職試験（裁判所事務官）	
	（院卒者区分）	（大卒程度区分）	（大卒程度区分）	（高卒者区分）
受験資格	30歳未満※であって 院卒及び 院卒見込みの者	21歳以上 30歳未満※の者	21歳以上 30歳未満※の者	高卒見込み及び 卒業後2年以内の者 （中学卒業後2年以上5年未満 の者も受験可）
第1次試験	基礎能力試験（多肢選択式）			
	専門試験（多肢選択式）			作文試験
第2次試験	政策論文試験（記述式）		論文試験（小論文）	
	論文試験（小論文、特例希望者のみ）			
	専門試験（記述式）			
	人物試験（個別面接）		人物試験（個別面接）	
第3次試験	人物試験（集団討論及び個別面接）			

総合職試験（裁判所事務官）は、政策の企画立案に係る高い能力を有するかどうかを、一般職試験（裁判所事務官）は、的確な事務処理に係る能力を有するかどうかを重視して行う試験です。
※年齢は、受験する年の4月1日現在

受験案内について

総合職試験及び一般職試験（大卒程度区分）の受験案内は2月中旬頃、一般職試験（高卒者区分）の受験案内は5月下旬頃から裁判所ウェブサイトに掲載します。

試験地の選択について

第1次試験及び第2次試験の筆記試験の各試験地は、希望する勤務地にかかわらず、全国の試験地から受験に便利な試験地を選択することができます。

家庭裁判所調査官補

総合職試験（家庭裁判所調査官補）の専門試験は、心理学、教育学、福祉、社会学、法律学の5領域15題から、試験当日に問題を見た上で、任意の2題を選択して受験できます。

Point 様々な学部出身の方が合格しています！！

受験資格	総合職試験（家庭裁判所調査官補）	
	（院卒者区分）	（大卒程度区分）
受験資格	30歳未満※であって院卒及び院卒見込みの者	21歳以上30歳未満※の者
第1次試験	基礎能力試験（多肢選択式）	
第2次試験	政策論文試験（記述式）	
	専門試験（記述式）	
	人物試験Ⅰ（個別面接）	
	人物試験Ⅱ（集団討論及び個別面接）	

※年齢は、受験する年の4月1日現在

Check

裁判所ウェブサイトにも、試験内容の詳細を掲載しています。そのほかにも、受験から採用までの流れ、過去の試験問題など、最新の情報を掲載していますので、是非ご覧ください。



職種紹介

より良い司法サービスを提供するため、裁判所では、裁判官、裁判所事務官、裁判所書記官、家庭裁判所調査官といった様々な職種が連携しながら、「適正・迅速な裁判」を実現しています。

裁判所事務官



適正・迅速な裁判の 実現を支える

裁判所事務官は、各裁判所の裁判部や事務局に配置されています。裁判部では、裁判所書記官のもとで各種の裁判事務に従事し、事務局では総務課、人事課、会計課等において事務全般に従事しており、様々な部署で活躍しています。

裁判所書記官



裁判手続の プロフェッショナル

裁判所書記官は、法律の専門家として固有の権限が付与されており（裁判所法第 60 条）、裁判所書記官が立ち会わないと法廷を開くことができません。裁判所書記官は、その権限に基づき、法廷立会、調書作成等を行います。さらに、法令や判例を調査したり、弁護士、検察官、訴訟当事者等と打合せを行うなどして、裁判の円滑な進行を確保することも大きな役割の一つです。

※裁判所書記官になるためには、裁判所事務官等として一定期間勤務した後、裁判所職員総合研修所入所試験に合格し、同研修所で約 1～2 年の研修を受ける必要があります。

家庭裁判所調査官

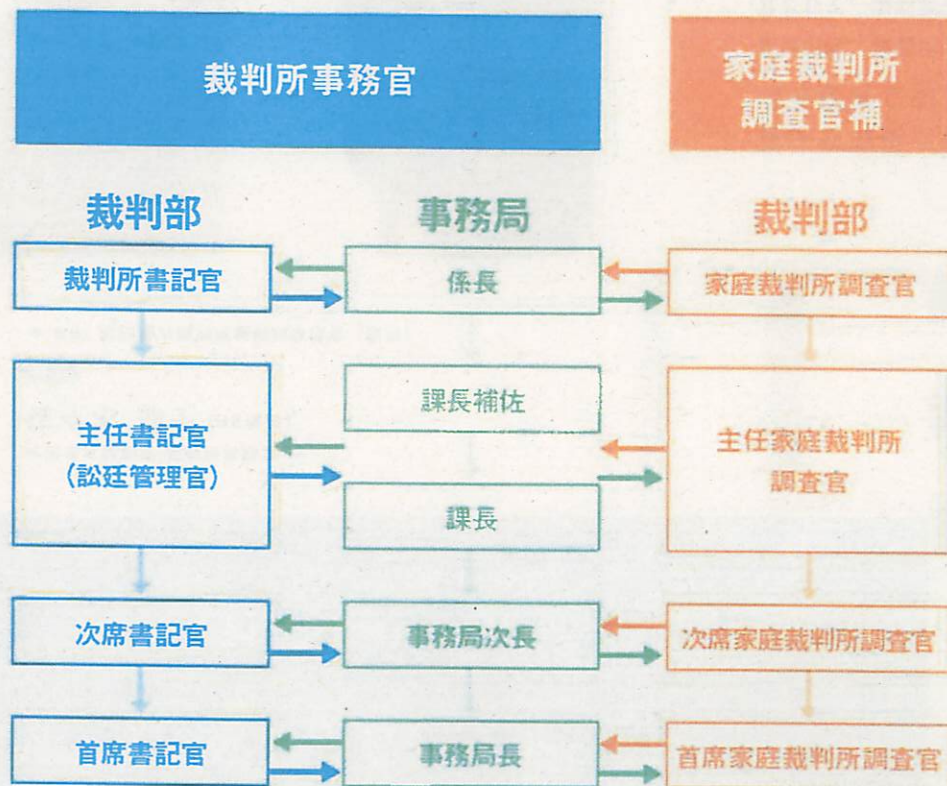


家庭や非行の問題解決の プロフェッショナル

家庭裁判所では、法律的な解決を図るだけでなく、事件の背後にある人間関係や環境を考慮した解決が求められます。家庭裁判所調査官は、例えば、離婚、面会交流（親子交流）等の当事者やその子どもと面接し、その意向や心情などについて調査を行ったり、非行を起こした少年やその保護者と面接し、非行に至った経緯や動機、少年の性格や行動傾向、生育歴、生活環境などについて調査を行います。

※家庭裁判所調査官になるためには、家庭裁判所調査官補として採用された後、裁判所職員総合研修所に入所し、約 2 年間の研修を受ける必要があります。

キャリアパス・待遇



※上記は、地方裁判所及び家庭裁判所を基準としたキャリアイメージです。
※異動、昇進は裁判部と事務局相互間でも行われます

採用後の異動

総合職試験（裁判所事務官）又は一般職試験に最終合格して採用された場合は、希望する勤務地を管轄する高等裁判所の管轄区域内で勤務することになります。この点は、総合職と一般職とで違いはありませんが、総合職は、所属の高等裁判所所在地

での勤務が中心となり、また、多くの総合職は最高裁判所での勤務も経験しています（なお、一般職として採用された場合でも、本人の希望状況等に応じて、最高裁判所で勤務することもあります）。異動のローテーションは、概ね3年を目安に行われます。採用された裁判所の所在する都道府県内での異動が一般的ですが、上位ポストに昇進するにつれて、県単位を異にした異動が行われることもあります。

裁判所では、学歴や採用年次等にとらわれることなく選考により管理職に昇任する仕組みをとっています。日々のOJTや研修等によりスキルアップを図ることができ、全ての職員に対して意欲と能力に応じた多様なキャリアパスが開かれています。

給与

※国家公務員試験採用者と同じです。

初任給	総合職試験（院卒者区分）	268,920円（行政職俸給表（一）2級11号俸）
	総合職試験（大卒程度区分）	240,840円（同2級1号俸）
	一般職試験（大卒程度区分）	235,440円（同1級25号俸）
	一般職試験（高卒者区分）	199,920円（同1級5号俸）

諸手当	期末・勤勉手当	俸給等の約4.5月分/年
	通勤手当	上限55,000円/月
	住居手当	上限28,000円/月
	その他	扶養手当、超過勤務手当など

※初任給は、東京都特別区内に勤務する場合の例です。

※上記の内容は令和6年4月1日現在のものであり、変更される場合があります。最新の情報はウェブサイトをご覧ください

※試験の種別については、P4を参照してください。

勤務時間・休暇・福利厚生

※国家公務員試験採用者と同じ制度が整備されています。

勤務時間 1日：7時間45分

休日 土曜日・日曜日・祝日及び年末年始

休暇 年次休暇：年間20日 ※4月1日採用の場合、採用年は15日。残日数は20日を限度として翌年に繰越し。
特別休暇（夏季、結婚、出産、忌引など）、病気休暇、介護休暇、介護時間

福利厚生

共済組合制度が設けられており、職員とその家族の生活の安定と福祉の向上を図るために、医療保険制度及び年金制度が用意されています。また、裁判所共済組合や国家公務員共済組合連合会が運営する各種の福祉事業を利用することができます。

総合職試験（家庭裁判所調査官補）に最終合格して採用された場合は、全国の家裁裁判所等で勤務することとなります。大規模庁で採用された後は、人材育成等の観点から、概ね3年を目安に小規模庁ー中規模庁ー希望庁又はその周辺庁の順に異動していくことが一般的です。その後は、地域の実情や上位ポストへの昇進などに応じた異動が行われます。

裁判所で活躍する Professional

裁判所事務官

My Pride

司法を支える仕事をしながら
自身も成長できること

秋田地方裁判所 裁判所事務官

佐々木 捺子 (R5採用)

略歴

- R5 秋田地方裁判所裁判所事務官 (採用)

意味や根拠を確認し、
臨機応変な対応が求められる仕事です。

私は現在、秋田地方裁判所民事第1部所属の裁判所事務官として、裁判所書記官を補助する形で民事裁判の運営に関わっています。具体的な仕事の内容としては、当事者や代理人との書面の授受、郵便物の作成や発送、裁判に関わる方々への連絡などで、裁判手続に幅広く携わっています。どの仕事も、機械的に流れ作業のように行う

のではなく、意味や根拠を確認し、状況に応じた臨機応変な対応をすることが求められます。

自分自身の成長を感じることが
やりがいにつながります。

私は、仕事をしていて自分自身の成長を感じることができたときにやりがいを感じます。法律系の学部出身ではないこともあり、仕事で出てくる言葉が聞きなじみのな



もののばかりで、はじめは裁判手続について理解するのが難しく、急な仕事ができるときにスムーズな対応ができないこともありました。しかし、周りの上司や先輩の指導や助言を受けながら、日々仕事を行っていくうちに、徐々に法律や裁判手続について理解が深まり、できることも増えてきました。任せていただける仕事の幅も広がり、自分が行った業務が裁判手続の運営に関わっているところを見ると、とても達成感を感じます。

若手からベテランの方々まで 協力して仕事ができる環境です。

上司や先輩は、人に対しては優しく、仕事に対しては厳しくというメリハリのある方々ばかりです。仕事をしていてわからないことがあった時に相談にいくと、私のどんなに小さな疑問にも、根拠を示しながら丁寧にわかるまで教えてくださいます。そのおかげで、私自身も根拠や

目的を調べながら仕事をする習慣が身につきました。誰かと相談しながら仕事をするのは若手職員だけというわけではなく、若手職員からベテランの方々まで互いに意見交換をし、協力しながら仕事ができる職場環境が整っています。これからはさらに経験を積み、尊敬する上司や先輩方に少しでも近づけるように努力し続けていきたいと思っています。そしてゆくゆくは裁判所書記官に任官できるよう、裁判所職員総合研修所の入所試験の勉強にも励んでいきます。



PRIVATE TIME



休みの日は、友達とご飯を食べに行ったり、お酒を飲んだり、旅行に行ったりとアクティブに過ごしています。昨年は夏季休暇を使って韓国に行きました。裁判所は休暇が取りやすいなど、ワークライフバランスが実現しやすい職場なので、休日は自分の好きなことをしてリフレッシュできます。

SCHEDULE

1日のスケジュール

8:30

始業

メール等チェックして、その日やるべきことを確認し、優先順位をつけてから業務に取り掛かります。

9:00

開廷準備

裁判で使用する法廷の開閉や開廷表の掲示、来庁した当事者の方のご案内等を行い、期日の開始をサポートします。



10:30

提出書面の受付

郵便や窓口、mints（民事裁判書類電子提出システム）で提出された書面の受付、点検、記録への綴綴を行います。

12:15

昼食

昼食を取り、お茶やコーヒーを飲んでリラックスします。

13:00

郵便物作成・ 発送

当事者へ発送する郵便物の作成をしたり、発送前の郵便物のチェックをします。

15:30

窓口・電話対応

窓口で代理人と書面の授受を行ったり、電話対応をします。

17:00

終業

次の日にやらなければならぬことを確認してメモを作り、退庁します。

裁判所で活躍する Professional

裁判所書記官

My Pride

誰からも信頼される
裁判所の実現に貢献ができること

松江簡易裁判所 裁判所書記官

角田 悠 (H31 採用)

略歴

- H31 松江地方裁判所裁判所事務官 (採用)
- R5 現職



裁判所の一員として働いていることを 実感できるときにやりがいを感じます。

私は現在、刑事立会係で働いています。刑事立会係の裁判所書記官は、刑事裁判に立ち会い、行われた手続を記録した調書を作成することで裁判手続の適正を担保し、公証官としての重要な役割を果たしています。また、円滑な審理の進行に向けた打合せにも、裁判所書記官が同席します。

裁判所書記官は公判廷の中だけではなく、執務室においても訴訟関係人と連絡をとりながら準備状況の把握や提出予定書面の管理を行ったり、事件の進行に関して裁判官と協議をし、法律上必要な手続についての意見具申を行ったりするなど、様々な場面・形で事件に関わります。こうした適正・迅速な裁判の実現を目指す裁判所の一員として働いていることを実感できるときに、裁判所書記官としてのやりがいを感じます。



また、事件が終局した際は、裁判官とともに公判期日に立ち会い、事件の進行に携わった者として達成感があります。特に裁判員裁判では、裁判員の方々にも分かりやすい裁判となるように、公判前整理手続が実施され審理予定が立てられます。こうした手続や裁判員の選任を経て実施された事件が終局した際は、担当した裁判所書記官としての達成感もひとしおです。

変化に適応しながら 裁判所書記官として成長し続けたい。

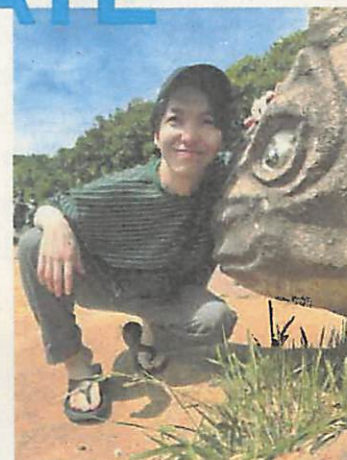
このような私ですが、大学では理系の学部に在籍しており、大学で法律に触れる機会はありませんでした。学生時代は、法律を駆使して裁判官と協働し、日本の司法に携わる仕事に就いている姿は想像していませんでしたが、それを実現できる手厚い研修等の制度が充実しているのも裁判所の魅力のひとつです。

今後、裁判手続のデジタル化がさらに進み、法

律や手続が変わっていく中で、裁判所職員としてその変化に適応することが求められます。そのようなニーズに応えながら、裁判所の窓口として国民からも信頼される裁判所書記官を目指し、現状に満足せず常に成長し続けたいと思っています。



PRIVATE TIME



平日の17時以降には同僚とフットサルやバスケットボールなどをして身体を動かしています。休日は家族と買い物に行ったり、家でゲームをしたりして、リフレッシュしています。休暇も取得しやすいので、遠方へ旅行に出かけるなど趣味に充てる時間も充実しています。

SCHEDULE

1日のスケジュール

8:30

始業

自身の1日の予定を確認し、部内で朝のミーティングを行います。

10:00

打合せ期日への立会

裁判官、検察官、弁護人による公判期日の打合せ期日(進行協議)に同席します。

11:00

訴訟関係人からの情報収集

各種期日に向けて検察官・弁護人から情報を収集し、必要なものについては裁判官と共有します。

12:15

昼食

お弁当をいただきます。午後の仕事に備えてゆっくり過ごします。

13:30

公判期日への立会・調書作成

公判期日に立ち会います。終了後は速やかに調書を作成し、公証官としての責務を全うします。



15:00

期日準備

事件記録を見ながら書面の提出状況や訴訟関係人の準備状況を確認し、訴訟手続に遺漏がないようチェックします。

17:00

終業

明日の期日の予定や準備事項を確認して、退庁します。

裁判所で活躍する Professional

家庭裁判所調査官

My Pride

最前線2"ケースに向き合い、
動かしていくこと

札幌家庭裁判所 家庭裁判所調査官

宮腰 智洋 (H27 採用)

略歴

- H27 仙台家庭裁判所家庭裁判所調査官補 (採用)
- H29 旭川家庭裁判所家庭裁判所調査官
- R5 現職



再非行に至らないような働き掛けや、
裁判所の施策の企画・立案に携わる。

私は現在、少年事件を担当しており、非行に至った背景を明らかにしたり、再び非行に至ることがないように様々な働き掛けを行ったりしています。また、裁判所の施策の企画・立案にも携わっており、家裁調査官の研修の企画や、裁判所のデジタル化について、他の部署の職員とも協力しながら取り組んでいます。

少年の持つ力を信じることの大切さとともに、
家裁調査官のやりがいを感じます。

あるケースの少年は、家庭や高校になじめず、不良仲間と遊ぶ中で非行に至りました。面接では、少年の口数が少なく、どう関わればよいかわかりませんでした。しかし、少年に寄り添いながら面接を重ねるうちに、少年は、ほめられた経験が少なく、自信が持てなかったこと、不良仲間だけが自分を認めてくれる存在であることを話すように



なりました。そのような少年の気持ちを保護者に伝えたところ、保護者は接し方を改める決意をしました。その後、少年は、高校を退学して仕事を始め、保護者や職場の上司から認められる経験を重ねる中で自信を少しずつ取り戻し、不良仲間との関係も断ち、立ち直っていきました。こうした場面に立ち会うと、少年の持つ力を信じることの大切さとともに、家裁調査官としてのやりがいを感じます。少年事件の少年や保護者、家事事件の当事者や子どもは、様々な困難や葛藤を経験しており、容易には問題を解決できない状況にあることも少なくありません。こうしたケースほど、家裁調査官の力が求められます。

正解がないからこそ チームとともに誠実に向き合う。

家裁調査官は、望ましい解決に向かうよう、非行や家庭内の紛争の背景をひも解いたり、

少年や当事者に働き掛けたりして、裁判官に意見を提出します。正解があるわけではなく、悩みも尽きませんが、上司や同僚と構成しているチームで、日頃から率直に意見交換したり相談できることも魅力の一つです。

家庭裁判所に来る少年や当事者は、それぞれの人生を歩んできており、同じケースは一つもありません。これからも、少しでも良い解決を目指して一つ一つのケースに誠実に向き合っていきたいと思います。



PRIVATE TIME



妻もフルタイムで働いているので、保育園の送迎を分担したり、子どもが風邪をひいたりしたときにスケジュールを調整し、周囲の協力を得て休みを取るなど、協力し合って子育てをしています。休日は、子どもを連れて公園に出掛けることが多いです。子育て中の同僚と、お勤めの公園や遊戯施設について情報交換をしています。

SCHEDULE

1日のスケジュール

8:30

始業

スケジュールを確認し、資料を読むなどして調査等の準備をします。

9:30

ケース会議

上司や同僚と一緒に、チームで担当するケースの調査方針や調査結果について検討します。

11:30

研修についての ミーティング

講師への依頼やロールプレイ教材の作成など、家裁調査官が参加する研修の企画・立案を行います。

12:15

昼食

育児中のため、昼休みを15分短縮し、終業時間を早める制度を利用しています。

13:30

調査面接

少年や保護者と裁判所において面接をします。

16:00

裁判官・書記官と カンファレンス

調査結果を共有し、今後の進め方について意見交換します。



16:45

終業

通常より15分早く終業し、保育園のお迎えや夕食の準備をします。

若手職員の声 裁判所事務官

My Pride

人が人生に向き合う場を
支える一員であること

高松高等裁判所 裁判所事務官

天野 和奏 (R5採用)

出身学部 法律系学部



就職先として裁判所を選んだのは
なぜですか。

裁判所を利用する方の人生に関わるという大きな責任とやりがい、家庭と両立しやすい職場環境、大学で得た知識や経験を活かせること、これらを兼ね備えていたのが裁判所だったからです。

採用試験に向けて、どのような勉強を
どのようなスケジュールで取り組み
ましたか。

大学2年生の冬に勉強を始め、夏まで数的処理・

憲法・民法に集中、年内に行政法・経済原論・文章理解を、年明けからその他科目を加えて知識を固めました。問題集等を最後まで繰り返し解き、4月には裁判所の過去問も解きました。

これからの目標を教えてください。

人や仕事に真っ直ぐに向き合う姿勢、そして笑顔と気遣いを忘れず、自ら考えて行動する芯のある職員になりたいと思っています。また、今は書記官任官が目の前の目標なので、試験へ向けて日々勉強に励んでいます。



若手職員の声 裁判所事務官

My Pride

司法を担い司法を支える
存在であること

多治見簡易裁判所 裁判所事務官

石川 拓哉 (R5採用)

出身学部 経済系学部



就職先として裁判所を選んだのはなぜですか。

業務説明会に参加した際に、職員のチームワークの良さに惹かれたことがきっかけです。また、上司や先輩に気軽に相談できる職場環境で、高度な専門性を身に付けてスキルアップできると聞き、私もそのチームの一員として仕事をしたいと感じ裁判所を選びました。

採用試験に向けて、どのような勉強をどのようなスケジュールで取り組みましたか。

大学2年生の冬頃から公務員講座を受講し勉強を始めました。その日勉強した内容を友人等と

互いに説明し合うなど、アウトプットを通じて理解を定着させることを特に意識していました。大学4年生の4月からは面接練習を毎日必ず行い、試験本番に備えました。

これからの目標を教えてください。

司法に携わる者として責任感と自覚を持ち、国民の方々の権利を守り、役に立てるように幅広い専門知識を身に付けていきたいです。また、より専門性の高い仕事をするために、裁判所書記官養成課程の入所試験に合格し、書記官に任官することも目標としています。



若手職員の声 家庭裁判所調査官補

My Pride

少年や家族の前向きな
変化を生み出すこと

福岡家庭裁判所 家庭裁判所調査官補

川崎 瀬夏 (R5採用)

出身学部 心理系学部



就職先として裁判所を選んだのはなぜですか。

心理学や教育学等の専門的な知見を生かし、非行から立ち直る方法や家庭内の紛争を解決する方法について、少年や当事者とともに考える家裁調査官の仕事内容に魅力を感じたからです。高い専門性を生かして、社会に貢献できることにもやりがいがありました。

採用試験に向けて、どのような勉強をどのようなスケジュールで取り組みましたか。

大学3年生の4月から大学内の公務員試験対策

講座を受講し、筆記試験の対策を行いました。学んだことを何度も復習し、知識を定着させました。大学4年生の4月からは、集団討論及び個人面接の練習を繰り返し行いました。

これからの目標を教えてください。

少年や当事者が自ら問題と向き合い、その解決方法を考えるための一助となる家裁調査官になることです。そのため、少年や当事者との信頼関係を大切にするとともに、高度な専門性を生かした調査及び調整ができるよう知識及び技法の習得に努めたいです。



若手職員の声 家庭裁判所調査官補

My Pride

一人一人の少年、一つ一つの家族に
向き合えること

東京家庭裁判所立川支部 家庭裁判所調査官補

大林 健太郎 (R5採用)

出身学部 法律系学部



就職先として裁判所を選んだのは
なぜですか。

大学の説明会で家裁調査官のことを知りました。一つ一つの事件に向き合い、法律的な解決を図るだけではなく、事案の本質を捉えた適正な解決を目指すという家庭裁判所の役割や家裁調査官の仕事に魅力を感じました。また、研修制度が整備されていることも魅力でした。

採用試験に向けて、どのような勉強を
どのようなスケジュールで取り組みま
したか。

大学内の公務員対策講座の受講を試験の約1年前から始めました。3か月前から過去問を試験と同じ時間で解き、実力と課題の把握に努めました。人物試験の対策には特に力を入れ、年明けから模擬面接を繰り返し、志望動機の整理や伝え方の改善を図りました。

これからの目標を教えてください。

日々の調査事務の中で、当事者の数だけ、様々な人生や思い、家族の形があると常々感じています。全ての事件に真摯に向き合い、一人一人の少年、一つ一つの家族に即した適正な解決についてひたむきに考え続ける調査官になりたいと思っています。



裁判所の総合職

My Pride

「デジタル」と
柔軟な思考を掛け合わせ
司法の満足度を高めること



最高裁判所 事務総局デジタル審議官付主任
牧野 彩音 (H28 採用)

略歴

- H28 東京高等裁判所裁判所事務官 (採用)
- H30 東京地方裁判所裁判所書記官
- R6 現職

様々な部署やプロジェクトに携わり、目標や戦略に向けた施策に積極的にチャレンジしてみたい、これが、私が総合職を志望した理由です。書記官として多数の事件関係者が関わる事件を担当した際は、適正で円滑な進行のため、ミクロとマクロの視点を使い分け、関係者との密な連携を図りました。また、民間企業への出向も経験し、会社の経営戦略を念

頭に、人材育成や働きやすい環境づくりについて議論を重ねました。こうした経験を通じて、柔軟な発想と多角的な視点を培うことができ、それが自身の成長につながっていると実感しています。

現在はより良い司法サービスの提供を目指し、裁判所のデジタル化の進展を支える施策を担当しています。組織全体の課題の発見から解決まで、多様な視点を取り入れながらチームで議論を重ねる日々によりやりがいを感じています。変化を続ける裁判所を支えるため、今後もさらに経験を積んで知見を深め、成長していきたいです。

裁判所の総合職

My Pride

政策の基礎は1つ1つの
小さな経験を活かすこと



最高裁判所 事務総局秘書課専門官

戸塚 聡勇 (H17採用)

略歴

- H17 東京高等裁判所裁判所事務官 (採用)
- H19 東京地方裁判所裁判所書記官
- H26 最高裁判所事務総局人事局係長
- H28 静岡家庭裁判所沼津支部主任書記官
- R3 現職

裁判所は、唯一の司法機関として適正で迅速な裁判を提供する責務があります。そして、裁判所の組織や裁判の基盤に関する企画立案を通じて、より多くの方々に向けて利用しやすい裁判を提供できるのではないかと考えたことが総合職を目指したきっかけです。振り返ってみると、そのような企画立案に当



たって役立っているのは、日々の様々な経験だと感じます。現在は情報公開に関する事務を担当していますが、もともと色々な仕事をしたいという思いもあり、これまで民事・刑事・家事と様々な事件のほか、司法行政事務を担当する機会にも恵まれ、幅広く経験を積んできました。

全国の裁判所の利用者はどのような政策を期待しているだろうか、どうすればその期待に応えられるだろうか、など明確な正解がない案件を検討することは簡単ではありません。しかし、今までの経験を活かしながら、それらを考えることが総合職として政策の企画立案に関わる醍醐味です。

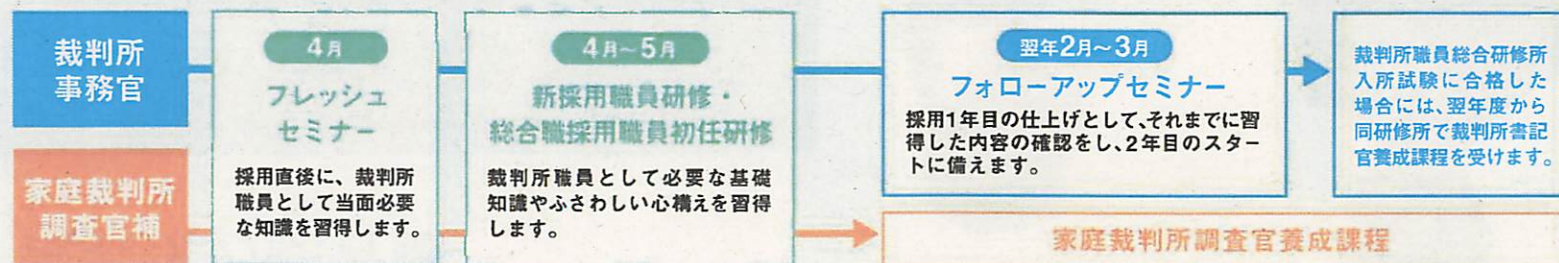
仲間とともに学び、成長する



裁判所職員総合研修所

埼玉県和光市にある最高裁判所の研修機関で、裁判所書記官及び家庭裁判所調査官の養成のほか、裁判官以外の裁判所職員に対する職務能力向上のための様々な研修や各種の研究を行っています。裁判所職員総合研修所は、講義やグループ討議など、目的に応じて利用できる大小多数の教室のほか、面接演習室、模擬審判廷など、裁判所書記官や家庭裁判所調査官の専門職として必要な技能・技法を身につけ、力を伸ばすための様々な専用設備を備えており、全国から研修に集まる職員のための宿泊施設も敷地内に完備されています。また、裁判所のデジタル化の取組が進められている中で、リモートによる研修等も実施しています。

採用後の研修 Off-JT



*この他にも、官職やキャリアステージごとに様々な研修が用意されています。

Point 入所試験の一部免除

総合職試験（裁判所事務官）に最終合格して採用された場合は、裁判所職員総合研修所入所試験が一部免除されます！多くの先輩たちが、採用後2年目に裁判所書記官養成課程を受け、採用後3年目には、裁判所書記官として活躍しています。

家庭裁判所調査官養成課程

家庭裁判所調査官補として採用されると、約2年間にわたり執務に必要な行動科学や法律等の理論及び実務について学び、修了後に家庭裁判所調査官に任命されます。

神戸家庭裁判所 家庭裁判所調査官補

小暮 主歩 (R5採用)

出身学部 人文系学部



My Pride

少年や当事者の人生に
寄り添うことができていくこと

家庭裁判所調査官養成課程は、裁判所職員総合研修所において、講義や演習を通じて調査事務を学ぶ合同研修と、所属庁において、指導担当者の下で実務に当たる実務修習に分かれています。

養成課程では、研修生3人一組で修習を進めます。それぞれの強みを生かしつつ、率直に意見を交わすことで、事件を多角的に検討でき、紛争や問題行動への理解がより深まることを学びました。

実務修習では、実際の事件を扱う中で、少年や当事者の人生の重要な局面に関わることになります。どのように関わればよいか悩むことが多いですが、その度に自らの疑問や未熟な部分に深く向き合った上で、指導担当者や他の研修生に率直に相談することが成長につながったと思います。うまくいかないことがあっても、周囲から助言を受けて、課題を克服できるという安心感を持ちながら、少しずつ成長できていると感じています。

裁判所書記官養成課程 第一部研修生

裁判所事務官等が入所試験に合格すると、翌年度から裁判所書記官養成課程で法律の理論、実務などについて学び、修了後に裁判所書記官に任命されます。

裁判所書記官養成課程は、第一部と第二部に分かれており、法学部を卒業した職員は、第一部の課程(約1年)を履修します。

法学部卒業以外の職員は、原則として第二部の課程(約2年)を履修し、基礎から学ぶことができます。



東京地方裁判所立川支部 裁判所事務官

平山 仁子 (R4採用)

出身学部 法律系学部

My Pride

裁判に不可欠な
存在となるために
仲間と切磋琢磨
できること

主体的に考える姿勢を身に付け、
専門知識と広い視野を備えた裁判所書記官を目指す。

裁判所書記官養成課程では、法律科目だけでなく、調書の作成を始めとする実務科目を扱う講義も多く、研修修了後に裁判所書記官となって活躍するために必要な、実践的な知識を身に付けることができます。裁判官・書記官どちらの教官も、研修生の質問に対し、研修生自身の考えも引き出し、時には同じ目線で議論しながら解説を行ってくれます。このような教官との関わりを通じ、研修生は実務で留意すべき点などを主体的に考える姿勢を身に付けることができます。また、全国から集まった仲間と討議を行う機会も多くあり、多様な意見に触れることで自分の視野を広げることができます。近年、裁判のデジタル化が進み、手続も多様化する中で、書記官には裁判の手続や進行について、様々な可能性を主体的に検討して関わるのが求められます。研修を通じ、裁判手続の専門知識と広い視野を備え、適正迅速な裁判の実現に不可欠な存在となることを目指しています。

裁判所書記官養成課程 第二部研修生

Our Pride

裁判官と同じく、
司法にとって欠かせない
存在であること



名古屋家庭裁判所 裁判所事務官

澤田 真吾 (H30採用)

出身学部 経済系学部

山口家庭裁判所 裁判所事務官

小早川 明星 (R2採用)

出身学部 薬学系学部

東京地方裁判所 裁判所事務官

宮下 紗季 (R2採用)

出身学部 経済系学部

入所試験の勉強はどのようにしましたか。

澤田：先輩職員や裁判官に教えてもらって勉強しました。

小早川：私も裁判官が開催する勉強会に参加し、答案添削や解説をしてもらいました。また、仲間と互いに相談したり、励まし合ったりしたことも合格に繋がったと思います。

宮下：学んだ経験がなかった刑法には重点的に取り組みました。

大学等で法律を専門的に学んでいない
ことで困ったことはありますか。

宮下：疑問点は、講義中のグループ討議や休み時間中に他の研修生と互いに相談することで解決できるものが多いため、行き詰まることはそこまでありませんでした。

小早川：教官に相談すれば、講義後でも丁寧に質問に答えてくれますしね。

澤田：確かに、疑問点を解決できる手立てはけっこう多いと思います。

クラスの雰囲気や寮生活について
教えてください。

澤田：講義の合間は、昨日何をしていたかという話で盛り上がり、ワイワイしていることが多いですね。

宮下：そうですね。良い雰囲気で研修を受けられています。

小早川：寮では、「おはよう」と挨拶し合える環境が心地よく、スポーツをして息抜きすることもあるので、勉強とプライベートでメリハリをつけて過ごすことができています。



最高裁判所事務総局人事局

〒102-8651 東京都千代田区隼町4番2号

TEL. 03-3264-8111(大代表)

ウェブ版限定コンテンツも配信しています！
<https://www.courts.go.jp/saiyo/index.html>



裁判所 採用

検索

各種SNSで、説明会情報や職場紹介動画等も随時発信中！

X



YouTube



Instagram



Facebook

